

令和5年度 丸亀市図書館協議会 第1回会議 会議録

1. 日 時 令和5年7月20日(木) 午後1時50分～3時

2. 場 所 丸亀市立中央図書館1階会議室

3. 出席委員(五十音順)

大 平 徹

古 村 博 子

中 俣 保 志

新 禮 子

樋 口 倫

真 鍋 真 紀

山 崎 洋 子

4. 欠席委員

香 川 真 実

5. 事務局

市民生活部長 田 中 壽 紀

図書館 館 長 氏 家 雅 子

図書館 次 長 藤 本 仁 美

関 野 真 樹

6. 傍聴者 なし

7. 開 会

- ・当該会議録について、市ホームページに掲載する旨を告知

8. 会議の成立

- ・過半数委員の出席により、会議成立

9. 任命書交付

- ・田中市民生活部長より各委員に交付

10. 部長あいさつ

図書館協議会については、図書館法の定めにより公立図書館に置くものであり、その役割として図書館の運営に関して、館長の諮問に応じてご意見をいただく場である。また、図書館奉仕と呼ばれる図書館のサービスについてご報告し、ご意見を伺うこととなっている。今後2年間、様々な形で、ご意見を伺うことになろうかと思う。その際はどうぞよろしくお願いしたい。

11. 委員自己紹介

12. 事務局紹介

13. 議事・質疑等

(1) 会長、副会長の選任

- ・選任は委員の互選によるが、特に意見なし。
- ・「事務局案の提示を依頼する」との声により、事務局案を提示
会長には中讃高等学校連盟 香川県立飯山高等学校 校長 大平 徹様を、副会長には子どもの本を読むお母さんの会会長 山崎洋子様を提案し、了承を得た。

・会長、副会長、就任の挨拶

会長あいさつ

スムーズな会の進行ができるよう委員の皆様にはご協力をお願いしたい。

副会長あいさつ

図書館には児童書が約15万冊、全体で約50万冊の蔵書があり、この素晴らしい蔵書を有意義に活用してもらいたい。良い方法を提案していきたい。

(2) 令和4年度事業報告及び令和5年度事業計画について

- ・事務局 「令和5年度 図書館要覧」に沿って説明
- ・委員 様々な取り組みをされていて非常に良いと思う。特に小中学生が利用しやすい夏休みは全日開館し、今年度、昨年度とも利用者数が増えている。高校生に関しては、図書館に勉強には行くが、あまり本を読んでいない。展示も工夫されていて、小中学生に対しては非常に有効かなと思う。様々な年代の方に各図書館が取り組まれている活動について、もっと効果的に宣伝できたら良いと思う。広報活動について工夫していることはあるか。
- ・事務局 若い方がフェイスブックをよく見るため、展示の紹介を掲載している。図書館のホームページにも情報を掲載している。読み聞かせ研修会や杉山亮先生の講演会

を開催したときには、ポスターを作成し、市広報にも掲載し、申し込みの受付も行った。

・委員 図書館のフェイスブックを見ているが、中央図書館の展示の紹介だけになっている気がする。各館で工夫して、展示コーナーを設けて、興味深い展示をされているので、紹介したらどうか。資料館と連携の「殿様を支えた家臣たち」などは楽しそうで、こういった連携展示もフェイスブックに掲載してくれているが、興味をそそられるので良いと思う。

・委員 読書推進の広報を考える前に、読書習慣をどう考えるかということだが、荻谷剛彦という教育学者の「学力と階層」という本に、読書習慣の調査が一部出てくる。その中に、生徒の読書習慣は結局、家庭環境、親の読書習慣に起因するところが大きいとある。まずは基本的にその子どもの読書推進を前提にするなら、家庭教育を視野に考えるべきであるが、それは学校教育、社会教育においても、できることとできないことがあるというのがまず一つの知見としてあって、もうひとつが図書館の知見としてある。そういった意味で丸亀の図書館は非常に工夫していると思う。文科省が2004年に発表した公共図書館のガイドラインに公共図書館の機能の中に席貸しの対策がある。これも何回かこの協議会で話しているが、基本的な文科省の見解としては、公共図書館の資料を用いて、何らかのディクテーションなり学びを得るというのが目途であって、その場所を貸して、持ち込まれた資料を読むということに対しては、メインとして考えないで欲しいとまだ文言に残っている状況である。ただ、それを実行したら、逆に若い利用者の方が離れてしまうので、全国的に席貸しをするという流れになっている。例えば、三本松の東かがわ市立図書館においては、学習室的なしつらえを重視しているのが現状である。図書館の利用者が増えることによって将来的な公共図書館の担い手に繋がるという考えで、図書館内で学習をしてもらうようにしている。

いわゆる中高生の読書推進はもちろん課題ではあるが、その前にまず図書館に来てもらうというラインを着実に実践するのが重要という点では、夏休み中の臨時開館というのは一つの方法としては有効だと思う。

最近、世界のSNS状況の統計をしている調査会社と、日本の総務省が把握しているSNSの統計情報を突き合わせたものが出ている。それによると、フェイスブックは世界的に見ても利用者が多いSNSだが、日本においてはランキング10位以下になっている。さらに年齢別で見ると、10～20代は皆無に近くなっている。フェイスブックで広報をするのは良いと思うが、もし若い人に見てもらえるなら、本当にフェイスブックが適切かどうかは今後検討した方が良いかもしれない。中高生の読書状況と図書館における中高生を受け入れる時の課題、また広報の方法にどのようなものがあるかという点を付け足しさせていただいた。

・事務局 中高生関連についてだが、高校生から小論文等課題で、DXに関する本はないかという問い合わせがあり、図書館においては、高齢者の利用が多いため小説などの蔵書が多く、時事的な専門書が必要とされていることについて認識不足だった

と感じた。

中央図書館が午後 8 時まで開館している中で、サラリーマンの方など昼間に来館できない方にも来ていただけるように、ビジネス関係のコーナーを作った。

中高生対象のティーンズコーナー内に、大学や学科の案内等進路に関する本を置いている。今後、館内の各コーナーの配置についても周知していきたい。

- ・委員 とて面白い取り組みだと思う。高校においても、そういった小論文、推薦、大学関係の書籍は揃えている。定期的に購入しているが、新しいものをタイムリーに購入するのは難しいので、図書館の方で新しい書籍を購入され、会社帰りの方々や中高生に向けて PR してくれているのはありがたい。活用される方は増えていくのではないかと思う。高校生に限っていうと最近はなかなかホームページを見ない。大学の方も生徒募集のためにアピールしないと生徒が集まらない。ユーチューブやインスタグラムなどセキュリティ上の問題はあがるが、若い世代がよく見ている SNS を使うなど、市役所内の他部署と連携し取り組んでいかれるのも良いのではないかと思う。
- ・委員 先ほど紹介した総務省の調査で、年齢別でいくと、10～20 代のランキングで言えば、ライン、ユーチューブ、ティックトック、インスタグラムもあるが、インスタグラムのメインが 40～50 代で、そうするとやっぱりユーチューブ、ライン、ティックトックという順になるだろう。ただ、ユーチューブは実は公共図書館や出版社も含めて活用しているところがあるが、ティックトックまではちょっとまだ踏み切れていない。ラインで何かやるのもなかなか難しい。ユーチューブで何かできるかもしれない。
- ・委員 入館者数については、中高生や一般の方が何人かがわからない。図書館として、来館者数を増やしたいのは中高生なのかそれとも一般の方なのかわかりかねる。例えば、令和 5 年度に何歳の子が何人利用して、中高生が何を利用したか統計を取られて、本当に必要な本を購入すべきだと思う。少ない予算の中で、本当にその本が必要なのか検討してほしい。
- ・事務局 入館者については、あくまで入館者カウンターで判別するので、何歳代が何人かということとはわからない。ただ、数字として明確に表すことになると、カードの利用状況を用いることになる。貸出カードの利用により何歳代の人がどの資料を利用したというのは引き出せる。また、時間帯ごとに貸出があれば、何歳代が利用したかも引き出せる。コーナー展示の利用が何歳代で何冊利用があったかは統計を取ることができるが、常設している書架については難しい。進路コーナーも普通の書架の一般書の中に常設していたが、コーナーを設置したことで、学生に周知できたと思う。
- ・委員 今はプライバシーの時代なので、調査の前に協力を求める形か、もしくは現在行われている目視かということになると思う。協力を求めるとなると、調査をするための人員が必要になるし、調査を受ける側の選択も難しい。期間を区切って、統計を積極的に行っている図書館もある。例えば利用者アンケートを 1 年か 2 年

に1回実施している図書館もある。ただ、アンケートは365日の1瞬間の断面を切り取るので、そういう意味でいうと目視も悪くはないと思う。

カードの貸出状況からということだが、研究という観点から、図書館の情報は個人情報として非常に重要視されている。

戦前の検閲や出版物について警察権力に提供したがために様々な問題があったという経験から、収集した情報はかなり限定的に統計に利用するならば全く問題ない範囲なので、踏み込む統計が必要かどうかは行政としての判断ということになると思う。

図書館の予算は限られているが、それ以上に学校図書館の予算は限られているので、寄贈の図書で対応したり、捨ててしまっても購入できなかったら困るという配慮から古い図書も捨てられない。そういう意味では学校図書館の方から見ても、進路系のものとか、学校教育に協力する趣旨の図書を図書館で対応することは歓迎されている印象である。

参考として、南信州の長野県の図書館検索のシステムは、学校図書館と公共図書館がオーパックというひとつの検索システムで見られるようになっていて、共同で検索の目録をつなぐということに対応している、そういうところもある。

・委員 高校生の読書推進については、ハードルが高く、小中学生においても子供の頃の読書体験が元になっていると思う。話を聞く力や調べ学習の力は、急には身につかないと実感している。

中央図書館のおはなし会は、以前は図書館の会議室で開催していたが、今はマルタスで開催している。マルタスは遊びのコーナーがあり、にぎやかなので、本に集中できないということも聞く。話を聞く、集中できる環境づくりが大事だと思う。今後、図書館の会議室で開催する予定、計画はあるか。

・事務局 図書館の会議室については、コロナの感染拡大時に利用を中止していた経緯がある。コロナの感染拡大が落ち着き5類に下がったため、今年度図書館の会議等で使用しているが、状況を見ながら、来年度から、ボランティアの方々のおはなし会の使用ができるように戻そうと考えている。

マルタスで開催しているおはなし会については、図書館とマルタスでは参加者が違うので、場所を変えることにより、新規の参加者を開拓できると思うので、マルタスで継続して実施していきたいと考えている。

・委員 例えばストーリーテリングの場合、集中できる雰囲気づくりが必要であると思う。話を聴くことに集中できるような環境を望んでいる。両方でしていただけたらうれしい。

・事務局 図書館会議室で開催していた行事について、コロナ前の形に戻していけるよう検討する。

(3) その他

・委員 絵本を検索することが多いが、飯山図書館にあり中央図書館にない場合などいろ

いろなパターンがある。選書については館の特色があると思うが、選書や新規購入のバランスはどうなっているのか。

- ・事務局 各館で購入しているシリーズものに関しては、継続して購入している。各館に候補を提出してもらい、中央図書館で決定している。窓口で実際の接客時に情報を仕入れて、各館でできるだけ重複しないように購入しているが、資料によっては丸亀市で1冊だけというわけにはいかないものもある。それぞれの予算規模やスペースにより調整している。中央図書館は、学校への支援として児童書の購入冊数の中でも、学校の調べ学習に関する資料の購入を担っているの、飯山図書館より購入冊数が少なく感じるのではないかと思う。
- ・委員 どこで購入しているのか。
- ・事務局 出版情報が記載されていて選びやすい週刊新刊全点案内が各館にあり、そこから選んでいる。各館で候補資料を選定し、その後中央図書館で決定している。
- ・委員 週刊新刊全点案内で注文した場合、コーティングされた本と図書館システムの中に購入した図書のデータが同時に入るの、作業を省力化できる。購入の方法はその他にもあると思う。
- ・事務局 現物を持ってきて見計らいで選ぶことができる業者も何社かある。特に調べ学習に関する本は、類似本が多く現物を比較しながら選定できるのでありがたい。シリーズ化している書籍は内容がイメージと違っていたら困る。
- ・委員 現物を見て選べるのは効率的である。週刊新刊全点案内のような冊子からセレクトするのがメインになる。

14. 閉会

15. 事務連絡

- ・事務局 特になし